



春日井市立松原中学校
R 2 学校便り第 2 4 号

剛健優雅

令和 3 年 1 月 7 日
文責 小 林 真

3 学期が始まりました

明けましておめでとうございます。2021 年がスタートしました。旧年中はコロナ禍の中、中学校の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有り難うございました。厚くお礼申し上げます。3 学期もこれまでと同様に、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、年末から年始にかけても、新型コロナウイルス感染症の拡大は収まる気配がなく、首都圏では「緊急事態宣言」が出されようとしています。学校は、これまでの感染防止対策をより徹底して、子どもたちの安全・安心を確保してまいります。保護者の皆様のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

＜始業式式辞より抜粋＞

皆さんおはようございます。2021 年が始まりました。短い休みでしたが、大きな事故やウイルス感染の報告がなくて、とりあえず安堵しています。今後も気を緩めることなく、事故防止・感染防止に努めましょう。

さて、2 学期の終業式に皆さんに出した宿題を覚えていますか。そう「自分はどんな未来を生きたいか」を考えてほしいというものでした。この冬休みは自分の夢をじっくりと考える時間にしてほしいとお願いをしました。少しは考えられたでしょうか。未来を考えると・未来に夢を持つことがなければ、人間の成長はのぞめません。ピンチになっても、それを乗り越えることが難しくなります。このコロナ禍は、まさに大ピンチです。全世界が苦しんでいます。様々な立場からお互いを励ます言葉がやり取りされています。そんな中「ピンチはチャンス」という言葉を耳にします。これも励ます言葉の一つですが、この言葉は複数の意味を含んでいて、途中が省略されているので、このコロナ禍では使い方が難しいと思います。例えば、営業自粛でお客さんが激減したお店に「ピンチはチャンスだから頑張って」と声をかけても「店がつぶれそうなのに、何がチャンスだ」と怒られてしまいそうです。ピンチは「乗り越えるのが難しい壁にぶつかったこと」ですから、今はこんな風に伝えると良いのではないのでしょうか。「壁は、超えられる可能性がある人にしかやっけてこない。だから、壁がある時は自分が成長するチャンス。諦めずに頑張ってください」この言葉は、2019 年 3 月にアメリカ大リーグシアトルマリナーズを引退した鈴木イチロー選手の言葉です。「超えられる可能性がある」という言葉に未来を感じますね。「何とかしてみよう」という気持ちにさせる言葉だと思います。

2 学期にも伝えたように「何とかする」には、豊富な知識と経験、そして人間関係が不可欠です。皆さんは、まだ、どれも満足とは言えません。この 3 学期は次の目標に向かってスタートダッシュができるように、これまで培ったものを最大限に生かして、すべてのことに努力を惜しまないでください。自分をもう一段レベルアップする 3 学期としてください。

最後にいつものスローガン、大切にしてほしい事 3 つです。

一つ目は命です。自分の命・他人の命を傷つけてはいけません。

二つ目は心です。思いやりの心をなくしてはいけません。

三つ目は未来です。未来を切り開く努力をやめてはいけません。自分と未来は変えられます。お互いに、明るい未来を考えられるような言葉を掛け合いましょう。コロナ禍でも、明るい未来を夢見てその実現を目指して活動する皆さんの姿を期待しています。

